

日本国憲法 9 条とは：外交の隠れ資産と世界史的意義について

ナギザデ・モハマド
(国際平和研究所所員)

私は憲法の専門家ではないが、PRIME 国際シンポジウムにおける国際法や国際法史の視点からの戦争違憲化運動または日本憲法 9 条や平和主義の国際性、そして一国平和主義の立場からの話を受けて、日本に対する国際的な友好度、日本の経済発展、国際協力の観点から若干の意見を述べたい。シンポジウムの趣旨は東北アジアの情勢が中心だったが、私はあえてアジアの正反対側、西アジア地域（いわゆる中東）の面から日本憲法 9 条を考えてみたい。

「近代国家形成」や「資本主義経済発展過程」において17～18世紀から現在に至るまで、戦争という行為が民族同士間で繰り返されてきた。ある意味でこのような非人間的な行為は国際社会の各国に内部化 (built in) されている。

ところで、このような内部化の傾向は戦後初めて画期的に排除された。日本は、非武装的な平和憲法に基づく高度成長を実現し、わずか23年間で、資本主義世界で第二の経済大国を実現した。世界中の国々とも友好的な関係を実践的に経験した。批判されている場面もあるが、おおむね尊敬されて国家として世界の注目をあびた。

しかし、平和主義憲法が改悪されることによって何が起るかを慎重に考えるべきではないかと思う。まず、日本における友好的な国際協力関係に、大きな影響があると思う。一部の国や人が日本軍隊の登場を喜ぶ可能性もあるが、大分の国々から見放される可能性も十分ある。

どこの国も海外の厳しい目に敏感に反応するのが常である。英国放送協会 (BBC) が最近 (2007 年 1 月発表) まとめた国際世論調査の結果に、多くの日本人は意外な感じを抱いたのではないだろうか。世界27カ国の2万8千人を対象としたアンケートで、国としての日本の「友好度」がカナダと並んで第一位となった。この調査は当事者や有識者の見解でなく、一般市民の目に映る日本のイメージであるから、「友好度一位」という「隠れ資産」は最大限に重要であると思う。

日本人は、このような背景を知らなければならぬ。BBC の調査で友好度の最低位はイスラエルだった。西アジアにおいて、軍隊に頼っているという印象や国際的な緊張、対立の源というイメージの影響であろう。一方で、対照的に日本の友好印象の理由も浮かび上がる。軍事大国のようにハードパワーに頼らず、日本国憲法 9 条等、経済、技術、文化等のように平和主義、いわゆるソフトパワー、あるいは隠れ資産で国際貢献を目指す姿勢だろう。日本を「世界に好影響を与えている国」とする回答は、全体の平均で54%だった。「日本が悪影響を与えている」とした回答が多数だったのは、韓国と中国だった。無論、それは、戦前の軍国主義時代の影響であろう。今のアメリカは戦前の日本のように軍隊に頼る勢力になっている。

同じ BBC の国際世論調査の結果のなかで、「米国が世界にプラスの影響を与えている」との回答は29%にとどまった。2年まえの40%、1年

前の36%から更に低下した。

ところで、日本は混迷するイラクにどう向き合うべきだったのか。日本は西アジアにおける戦後100年間で蓄積した隠れた資産を使用するよりも簡単に自隊派遣に走った。今でもイラク再建の名目の下でアメリカの兵力や兵器を運送する。これはいうまでもなく軍事的な活動である。イラクは外国の介入によって、まだ再建の時期に入ることができない。

ブレジンスキー元米国大統領補佐官は、「多くの点で一面的であり、極端だ。米国の国際的信頼を失うような政策を平気で打ち出している」という。このようなネオコン的な勢力と組んだ日本は、外交の柱に置く平和主義や国際協調路線から外れているように西アジアの人々の目から見える。

ところで現在、4年間にわたって3,270人の米兵と6万人のイラク市民の死者によって、日本自身がこの地域でたゆみなく一世紀以上わたって倍ってきた、外交資産（日本国憲法9条や平和主義に対する信頼観）の蓄積が失われつつある。

幸いにも、日本の自衛隊員に死者が出なかった。それはなぜか？昨年8月にイラクのバグダッド大学を訪ねる機会を得た。バグダッド大学のある教員がいった言葉がある。「日本の自衛隊派遣に、イラク国民は皆反対です。しかし、なぜ日本の自衛隊に犠牲が出なかったかという、日本国憲法9条のおかげです。」というものだ。

アメリカが西アジアで信頼関係を築くのは困難だ。1953年のイラン政府の転覆や、核も含む無条件でのイスラエル支援、また、2003年のイラク侵攻等への不信感も根強い。

日本国憲法9条の改悪や米陸軍第一軍団司令官のキャンプ座間への移転、対テロの名目で日米軍事同盟の範囲を西アジアやペルシャ湾までに拡大解釈する等のことによって、日本は一体何を得られるのか。自衛隊派遣でイラクの国民だけでなく、イラクの周辺国は残念ながら日本をアメリカの手先と見るようになってしまった。

日本国憲法9条のおかげで、この国は世界最大の「隠し資産」をもっていると思う。西アジアに対する日本の貢献は、当事者に単なる資金をだしたり、東京に呼んであげたりすることではない。日本の真の貢献は日本国憲法9条を守り、武力に頼らない独自の信頼外交を築き上げ、それをこの地域の民衆に見えるように全面に打ち出すことである。軍事力を伴う貢献は（いくら資金を出しても）対米追従としかみられかねない対策である。

日本は日本国憲法9条に基づいて蓄積された軍事的野心のない平和国家への信頼という外交資産を生かし、人道や経済発展支援に徹底した活動を進めるべきである。それこそが親日感情を抱く西アジアだけでなく、平和を愛する世界の人々に応える、世界史的にも意義のある道だといえる。